

熊本商工会議所・第51回 経営動向調査

平成21年3月期 結果報告書

業況DI ▲55.3となり5期連続の悪化で過去最低を更新

～飲食業が大きく悪化したものの、建設業（土木）は大きく改善～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値は▲55.3となり、前回（平成20年12月期）調査の▲54.8と比較して僅かながらも更に悪化（▲0.5ポイント）、平成19年12月期以来5期連続の悪化で調査開始以来の最低を更新した。

前回調査から業況が改善したのは、建設業（土木）が▲6.7ポイント（+40.0ポイント）、卸売業が▲53.6ポイント（+10.4ポイント）、建設業（職別・設備）が▲57.7ポイント（+3.8ポイント）の3業種であった。一方、悪化を示したのは、飲食業が▲57.1ポイント（▲17.1ポイント）、製造業が▲59.3ポイント（▲12.1ポイント）、小売業が▲67.3ポイント（▲11.7ポイント）、サービス業が▲55.3ポイント（▲7.4ポイント）の4業種という結果となった。

今回の調査で業況を全体的に見ると、一部業種においては年度末の需要期を迎えたことと、製造原価・仕入単価の下落によりやや好転の動きが見られたものの、業況DIは▲55.3と5期連続の悪化となり、平成8年9月の調査開始以来の最低を更新した。中でも、飲食業においては年末需要の反動もあり▲17.1ポイントと大幅に悪化、サービス業は▲7.4ポイントで2期連続の悪化となり過去最低の水準に近づいた。建設業（職別・設備）は、前期が過去最低を更新したため+3.8ポイントとやや改善したものの、対前年同期比では▲75.0ポイント

（▲9.6ポイント）で過去最低となった。一方、建設業（土木）においては、+40.0ポイントと大幅に改善し3年振りに▲1桁台を回復、卸売業においても+10.4ポイントと3期振りに改善した。

来期（平成21年4～6月）の業況見通しについては、飲食業、サービス業、建設業（職別・設備）の3業種で過去最低あるいは最低水準に近い非常に厳しい業況見通しとなったものの、建設業（土木）、卸売業、小売業、製造業では明るい業況見通しとなった。

調査先からの意見として、依然として受注の減少や消費マインドの低下、先行きの不透明感を懸念する声が多いものの、一方では、仕入・原材料価格の下落による利益率の向上や、九州新幹線・熊本駅周辺再開発関連工事の受注など、前向きで明るい兆しが期待される声も聞かれた。

- ・ 調査対象期間 平成21年1月～3月（平成20年度 第4四半期）
- ・ 調査期間 平成21年3月9日（月）～3月13日（金）
- ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 288事業所
- ・ 回答数 207事業所（回答率71.9%）

※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	28	75.7
建設業（土木）	20	15	75.0
建設業（職別・設備）	34	26	76.5
卸売業	34	28	82.4
小売業	72	49	68.1
飲食業	21	14	66.7
サービス業	70	47	67.1
合計	288	207	71.9

※ DI値（業況判断指数）について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(20年12月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(原材料等)単価は改善したものの、販売(受注)・客単価は悪化した。売上高は大きく悪化し、採算(営業利益)もやや悪化した。

〈製造業〉

製造原価は大きく改善したものの、販売(受注)単価はほぼ横這いであった。売上高は大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化した。

〈建設業(土木)〉

仕入単価は改善し、受注単価は大きく改善した。売上高、採算(営業利益)とも大きく改善した。

〈建設業(職別・設備)〉

仕入単価は大きく改善し、受注単価はやや改善した。売上高は大きく悪化したものの、採算(営業利益)は大きく改善した。

〈卸売業〉

仕入単価は改善したものの、売上単価は大きく悪化した。売上高はやや悪化したものの、採算(営業利益)はやや改善した。

〈小売業〉

仕入単価は大きく改善したものの、客単価は大きく悪化した。売上高は大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化した。

〈飲食業〉

仕入単価はやや改善したものの、客単価は大きく悪化した。売上高、採算(営業利益)とも大きく悪化した。

〈サービス業〉

仕入単価(材料等)はやや悪化し、客単価も悪化した。売上高は大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化した。

業種別の業況一覧

上段＝対前期比
下段＝対前年同期比

業種	今回調査 (21年3月期)	前回調査 (20年12月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 55.3	▲ 54.8	▲ 0.5
	▲ 61.3	▲ 58.3	▲ 3.0
製造業	▲ 59.3	▲ 47.2	▲ 12.1
	▲ 67.9	▲ 64.3	▲ 3.6
建設業 (土木)	▲ 6.7	▲ 46.7	40.0
	▲ 26.7	▲ 50.0	23.3
建設業 (職別・設備)	▲ 57.7	▲ 61.5	3.8
	▲ 75.0	▲ 65.4	▲ 9.6
卸売業	▲ 53.6	▲ 64.0	10.4
	▲ 50.0	▲ 68.0	18.0
小売業	▲ 67.3	▲ 55.6	▲ 11.7
	▲ 73.5	▲ 60.4	▲ 13.1
飲食業	▲ 57.1	▲ 40.0	▲ 17.1
	▲ 69.2	▲ 40.0	▲ 29.2
サービス業	▲ 55.3	▲ 47.9	▲ 7.4
	▲ 53.2	▲ 52.1	▲ 1.1

来期(21年4～6月期)の業況見通し

全業種における来期(21年4～6月期)の業況見通しのD I値は▲45.1となり、20年12月期の前回調査の業況D I値▲50.0と比較して4.9ポイント改善した。

前回調査と比較して来期の業況見通しのD I値が改善する業種は、卸売業、製造業、小売業、建設業(土木)の4業種で、特に卸売業においてはプラス27.6ポイントと明るい業況見通しとなった。一方、業況見通しが悪化の業種は、建設業(識別・設備)、飲食業、サービス業の3業種で、特に飲食業とサービス業では過去最低のD I値を記録、建設業(識別・設備)でも最低水準に近い値を示すなど非常に厳しい業況見通しとなった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業 種	今回調査 (21年3月)	前回調査 (20年12月)	今回調査との比較
全 業 種	▲45.1	▲50.0	4.9
製 造 業	▲57.1	▲76.0	18.9
建 設 業 (土 木)	▲15.4	▲26.7	11.3
建 設 業 (職別・設備)	▲48.0	▲33.3	▲14.7
卸 売 業	▲36.0	▲63.6	27.6
小 売 業	▲38.6	▲51.1	12.5
飲 食 業	▲76.9	▲64.3	▲12.6
サービ業	▲48.8	▲37.5	▲11.3